



つきたて！
もちもち！

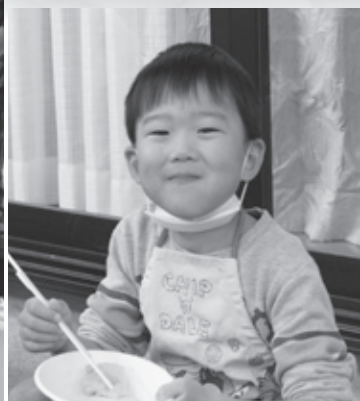


地域で育てたお米でおもちつき♪



あんこにきなこ♪

もっちもちのお餅に
みんなの笑顔がこぼれる



Contents もくじ

〔特集〕

「庁舎等整理統合基本計画」 を策定しました	2～5
まちかどとびくす	6～7
こちら市長執務室	8～9
ちいきのげんきを発信中！	10～11
教育たんば	12～13
年金広場 ほか	14
じんけんのとびら ほか	15
イベント情報	16～17
健康生活	18～19
情報ひろば	20～23
節電チャレンジ ほか	24

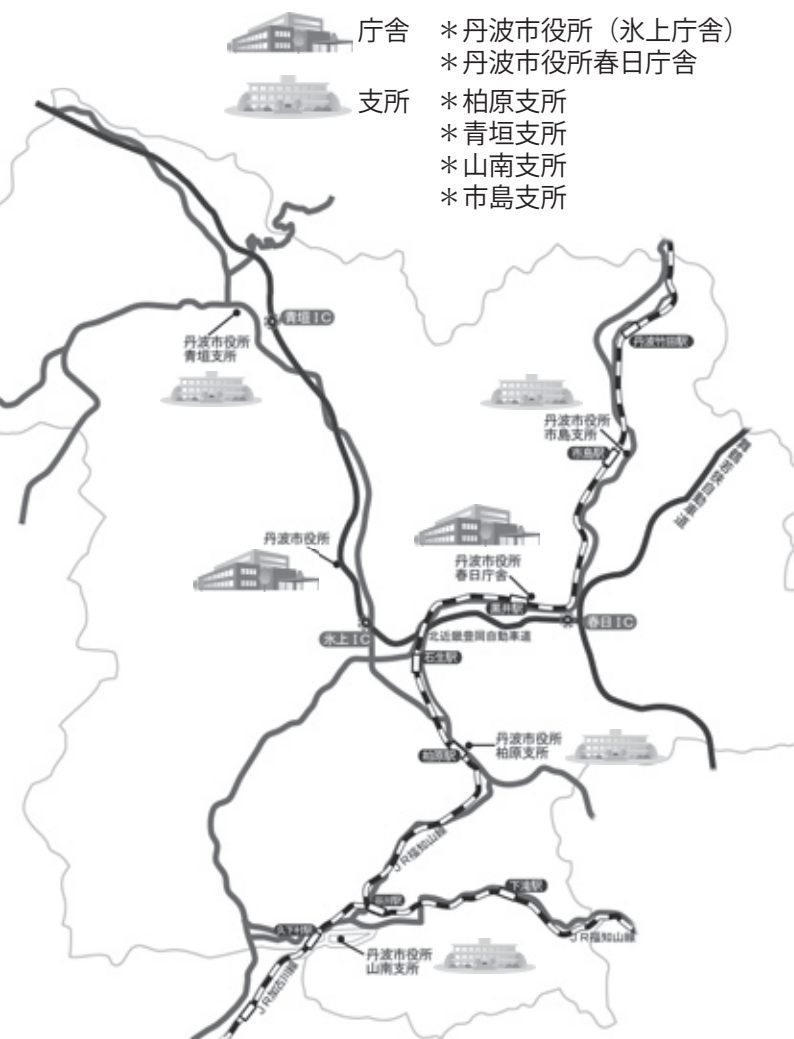
〔表紙の紹介〕

本郷でふれあいもちつき大会

12月4日（日）、氷上町本郷で「ふれあいもちつき大会」が行われました。もち米は、農地・水・環境保全活動の一環で、休耕田を活用し地域のみんなで育てたものを使用されました。子どもたちは大人たちにまけじともちつきに挑戦し、杵の重さにとまどいながらも、お父さんや近所のおじさんなどの助けを借りながら、はじめてのおもちつきを楽しんでいました。



＊現在の庁舎と支所の位置



- 庁舎 ＊丹波市役所（氷上庁舎）
＊丹波市役所春日庁舎
- 支所 ＊柏原支所
＊青垣支所
＊山南支所
＊市島支所



市議会が自治会長などを対象に実施したアンケート結果では、「現状維持」が35.4%、「丹波市役所（氷上庁舎）または春日庁舎に統合」が33.3%、「新庁舎建設」が17.5%と意見が分かれました。

丹波市は、平成16年11月1日に氷上郡6町が合併し誕生しました。氷上地域に市役所を、春日地域に春日庁舎を設置する分庁舎方式を採用しスタートしましたが、旧6町から引き継いだ施設のあり方や、その活用方法が課題となっていました。

また、合併以来新市の一体感の醸成、市民の「心の合併」を優先したまちづくりをめざして取り組んできましたが、市では一定の成果が得られたことから、今後の庁舎のあり方、つまり「新市の事務所の位置」の方向性を示す時期であると判断し、庁舎検討委員会に諮問しました。その結果、現在の分庁舎方式を廃止し「増築（本庁機能集約）・支所機能維持が望ましい」との提言を受け、職員によるプロジェクトチームを立ち上げ検討を行いました。

そんな折、東日本大震災が発生し、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。復旧・復興が国家的な課題となり、今後、さらに地方財政への影響も懸念されることから、庁舎のあり方について「新たな視点」をふまえ検討を重ねてきました。

Section 1

「庁舎等整理統合基本計画策定」までの経過

市民が主役の庁舎をめざして

「庁舎等整理統合基本計画」を策定しました

市内には庁舎や支所をはじめ、文化ホール、体育施設など多くの施設があります。これらは職員が行政事務を行う事務所としての役割だけでなく、市民のみなさんが気軽に立ち寄ることができる「市民のための施設」でもあります。

市民サービスの充実と効率的で効果的な行政運営が従来にも増して求められているなか、市民が主役の庁舎をめざして「庁舎等整理統合基本計画」を策定しました。

＊丹波市役所春日庁舎

＊丹波市役所（氷上庁舎）

庁舎等のあるべき姿（将来イメージ）



※各住民センターには支所機能を含めます

庁 舎に限らず市内の公共施設は、合併によって同じ目的の施設が多いのが現状です。今後は、これらを市の規模に見合ったものにし、将来の財政負担を軽減する必要があります。機能集約にあたっては、20年先の公共施設の規模・機能を見据えながら、市民のみなさんに将来像を示し、整理統合を図っていくことが大切です。

丹 波市の中心部である柏原・氷上・春日地域については、丹波市におけるひとつの『中心の街（まち）』としてとらえます。また、青垣・山南・市島地域は、その機能を補完する街と位置づけ、庁舎、体育館、文化ホールを含む

めた公共施設の配置を示し「庁舎等のあるべき姿（将来像）」として確立します。

な お、将来の庁舎等の建設費用については、今後さらなる行政改革を進めながら市民に密着した事業を優先して行なう中で、「庁舎等建設基金」を積み立てて財源確保を図ります。

Section 4

庁舎等のあるべき姿ーその将来像とはー

*水道施設統合や道路の整備に	今後の… 合併特例債 主な使い道
*一般廃棄物処理施設の整備に	*認定こども園の整備に

【用語解説】
合併特例債って？
合併後の地域振興や旧地域間の格差是正などのまちづくりのために起債できる地方債（借入金）のことです。

①合併特例債を市民生活に密着した事業に優先的に活用

今後の合併特例債の発行予定額は、約262億円と試算されています。これを活用して庁舎の増築等を行うことも検討しましたが、地方交付税などの減額が見込まれるため、より市民生活に密着した事業に優先して発行します。



庁舎のあり方について
ー「新たな視点」とはー

今 後の市の財政面の見通しや、東日本大震災が国や地方に与える財政上の影響など、新たな視点をふまえて総合的に判断した結果、「氷上庁舎又は春日庁舎の老朽化が進み使用困難となった時点以降を目安に、増築又は新庁舎を考える」とし、それまでの間は、「既存施設を最大限に活用した機能集約を行い、分庁舎方式、支所機能を維持する」ことになりました。

Section 2

新たな視点をふまえ「分庁舎方式」を継続します

②公共施設の整理合理化との整合性

市内には、旧町から引き継いだ体育館や文化ホールなどの生涯学習施設が点在しています。将来の財政負担を軽減するために、既存施設をできるだけ長く活用する一方で、建て替え時期または大規模修繕が必要な時期が来た時点を目安として、段階的に施設の廃止・統合を進めていくこととしています。このように、施設の整理合理化を進めている段階において、新たな施設をつくることは極力避ける必要があります。

③既存施設の有効活用

東日本大震災は、モノや人を大切にする意識の芽生えなど、私たちの生活意識にも変化をもたらしました。市役所の耐用年数は残り17年、春日庁舎は残り34年で、当面は使用可能な状態にあります。当分の間は既存施設を最大限に活用し、将来的には人口・職員数・財政状況や社会情勢などを見据えながら、増築や新庁舎建設など庁舎の統合について検討します。

Section 3

「分庁舎方式」の課題と対応

今 後は、本庁機能の集約への移行について将来的に考えながら、当分の間は「分庁舎方式」を続けるため、その間の課題と対応について整理し、取り組んでいく予定です。

①分庁舎方式の継続にともなうコストへの対応

- 課題
- ・各部署の連携、事務の効率化など
 - ・職員の庁舎間移動にかかるコスト



対応策

- ・教育委員会（山南庁舎、水道部（柏原支所内）を市役所（氷上庁舎）及び周辺施設に集約
- ・政策的協議の多い部署を市役所に、窓口業務の多い部署を春日庁舎に再編
- ・テレビ会議システムを積極的に活用

②部署再編によって生じる庁舎の空きスペースの利活用

- 課題
- ・教育委員会と水道部の集約化により、山南庁舎と柏原支所に空きスペースができる



対応策

- ・山南庁舎の空きスペースは、ボランティア団体などの事務所や市民活動の拠点施設としての活用を検討
- ・柏原支所の空きスペースは、廃止・解体を進める

※庁舎等の空きスペースについては、地域の意見を伺いながら、その活用方法や方向性について考えていきます。

Interview with
Professor Kumiko Sugimoto



丹波市庁舎検討委員会 元副委員長
大阪人間科学大学 人間科学研究科 教授
杉本 久末子 氏

一庁舎等整理統合基本計画の策定について
庁舎検討委員当時の思いも交えて感想を伺いましたー

庁舎検討委員会では、行政の効率化以上に、庁舎から遠くに住む市民の方が不便を感じないように配慮して審議を進めました。これが前提条件としてあげた「支所機能の維持」です。もう一つは「将来の丹波市民に負担をかけたくない」という強い意識です。少子高齢化が進み、自治体の財政状況も厳しさを増すことが予想されたので、新庁舎の建設による大きな負担を子どもや孫の世代に背負わせたくなないと当時の委員のみなさんが判断されたのだと思います。

今回策定された基本計画は、施設の有効活用を優先した賢明な判断だと思えますし、私たち委員会の思いも引き継がれています。

丹波市の魅力は、6つのまちがその個性を活かした地域づくりをすることで高まると考えています。市役所から離れた市島、山南、青垣の地域づくりもしっかりと支援してもらいたいですね。